

愛媛県の医療とスタッフを守る、迅速な準備と感染対策

COVID-19は2019年末に発生した新型呼吸器感染症です。県内最初の患者さんは附属病院で治療してほしいという愛媛県からの依頼もあり、2020年始めに対策本部を設置しました。当初は資材不足の中で、職員や学生を感染から守るための教育と、診断や感染対策のシステム構築に力を入れました。治療に関しては重症患者さんに対して、救急科、感染症内科と呼吸器内科を主としてそれを病院全体でサポートをする体制で人工呼吸器やECMOを使用する高度な治療を担当しています。2022年1月までに累計57名の重症患者さんを受け入れています。感染対策は基本の手技を正しく継続する地道な作業です。今後も愛媛県を守る安全・安心な医療の提供を行ってまいります。

PROFILE

たうちひさみち◎1989年愛媛大学医学部卒業。1999年より当院にて勤務。専門は小児科・感染症。日本血液学会専門医・指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医。2011年より現職。趣味はネコ。



重症患者治療を支えるハードとソフトの強化、そして連携



重症患者さんの治療はウイルスの排除と炎症が収まる間の呼吸を中心とした全身管理で、ICU（集中治療室）で人工呼吸器やECMOなどを用いて診療します。第1波終息後、今後の感染拡大や重症患者数の増加に備えて、既存の陰圧個室3床に加え、ICU9床を陰圧個室に変更工事をしました。患者数が増えた第3波以降は看護部、多くの診療科医師、多職種スタッフの協力により乗り越えることができました。手術の一部制限なども行い、愛媛県の重症患者さんを救うためにCOVIDチームとして協力してくれた多くの人たちのおかげです。今後も重症患者さん一人ひとりの診療を大切に続けることと、愛媛県内での更なる連携強化に取り組んでいきます。

PROFILE

さとうのりお◎1995年愛媛大学医学部卒業。2019年から現職、2020年12月からは病院長補佐（災害担当）。専門は救急医学・集中治療。趣味は若者への無償の愛（継続中）。

患者さんと職員を守るための感染対策を目指して

新型コロナウイルス感染症患者が報告されて以降、様々な学会から出される情報をもとに、感染対策マニュアルを作成しました。日々現場に出向き、職員とともに良い感染対策を考え、実践に繋がっています。今後は、感染症の有無に関わらず行う標準予防策をさらに強化することが大切です。その中でも、手指衛生の徹底やサージカルマスクの適切な装着などは、患者さん及び自分の身を守るために大切な感染対策です。すべての職員が徹底して行うための体制づくりを目指します。

PROFILE

あおのはるか◎2002年吉備国際大学保健科学部（現：保健医療福祉学部）看護学科卒業。同年より当院にて勤務。手術室および集中治療室を経て2015年12月から現職。趣味はスポーツ鑑賞。

